

3 「天空の黎明」(無観客ライブ配信)

実施日：9月4日(土曜日) 24:00~9月5日(日曜日) 5:00 ※視聴方法は後日公式ウェブサイトにて発表します。

ライブ配信会場：東京スカイツリー天望デッキフロア 350

参加アーティスト：稲葉俊郎、GOMA、コムアイ、中山晃子 ほか



©TOKYO-SKYTREE

『隅田川怒涛』のクロージングを飾る、オンラインライブ配信イベント。日本が誇る表現者が集結し、ライブやトークなど様々な演目を東京スカイツリー®の展望台から配信します。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、まだまだ先行きが不透明な状況の中、深夜から始まり視聴者と共に日の出を迎えることで、黎明(=明け方。転じて「黎明期」とは、ある事柄が形になる前の始まりの時期を表す)を画面を通じてお届けします。東京における最前線の表現を、高さ世界一の自立式電波塔の天空から全世界に向けて発信し、芸術文化の未来を描きます。

(アーティストプロフィール)

稲葉俊郎



1979年熊本生まれ。医師、医学博士、東京大学医学部附属病院循環器内科助教(2014-2020年)を経て、2020年4月より軽井沢病院副院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任(山形ビエンナーレ2020 芸術監督 就任)。在宅医療、山岳医療にも従事。未来の医療と社会の創発のため、あらゆる分野との接点を探る対話を積極的に行っている。単著『いのちを呼びさますもの』(2017年)、『いのちは のちの いのちへ』(2020年)(アノニマ・スタジオ)、『ころころするからだ』(2018年、春秋社)、『からだところの健康学』(2019年、NHK出版)、など。

GOMA



オーストラリア、アボリジナルの伝統楽器ディジュリドゥ奏者として活動していた2009年交通事故に遭い外傷性脳損傷による高次脳機能障害と診断され活動を休止。事故後、突然緻密な点描画を描きはじめる。プリミティブな衝動に突き動かされた自由な発想と独特な色彩感覚が特徴的な絵画により画家としても活動を開始。2012年GOMAを主人公とする映画「フラッシュバックメモリーズ3D」が東京国際映画祭にて観客賞を受賞。2019年 詩人の谷川俊太郎との共著、自身初の画集『Monad』出版。

コムアイ



アーティスト。1992年生まれ、神奈川県育ち。ホームパーティで勧誘を受け歌い始める。「水曜日のカンパネラ」のボーカルとして、国内だけでなく世界中のフェスに出演、ツアーを廻る。2019年4月3日、屋久島でのフィールドワークをもとにプロデューサーにオオルタイチを迎えて制作した音源「YAKUSHIMA TREASURE」をリリースし、公演を重ねる。2021年、新しい形の音楽体験「YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER LIVE from 屋久島」をオンラインにて公開。

現在はオオルタイチと熊野に通いながら新作を準備中。2020年からOLAlbiとのコラボレーションも始動。北インドの古典音楽や能楽、アイヌの人々の音楽に大きなインスピレーションを受けながら音楽性の幅を広げている。

音楽活動の他にも、ファッションやアート、カルチャーと、幅広い分野で活動。

2020年にアートディレクターの村田実莉と、架空の広告を制作し水と地球環境の疑問を問かけるプロジェクト「HYPE FREE WATER」が始動するなど、社会課題に取り組むプロジェクトに積極的に参加している。

中山晃子



画家。液体から固体までさまざまな材料を相互に反応させて絵を描く「Alive Painting」というパフォーマンスを行う。科学的、物理的な法則に基づくあらゆる現象や、現れる色彩を、生物や関係性のメタファーとして作品の中に生き生きと描く。ソロでは音を「透明な絵の具」として扱い、絵を描くことによって空間や感情に触れる。近年では TEDxHaneda、DLECTRICITY ART FESTIVAL 2017(US De-troit)、New Ars Electronica opening performance 2019 (オーストラリア リンツ)、Biennale Nemo 2018(フランス パリ)、MUTEK モントリオール等 にも出演。